

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	24人	算数	24人	理科	24人
第5学年	国語	23人	算数	23人	理科	23人

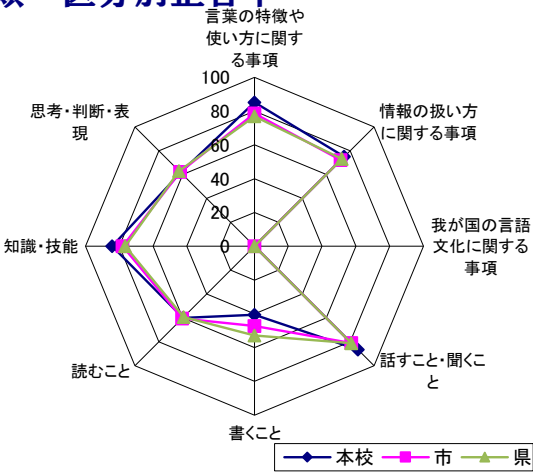
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	85.2	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	75.0	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	86.5	81.0	81.1
	書くこと	40.6	47.2	52.8
	読むこと	59.9	60.5	59.3
観点	知識・技能	84.2	78.0	76.5
	思考・判断・表現	61.7	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

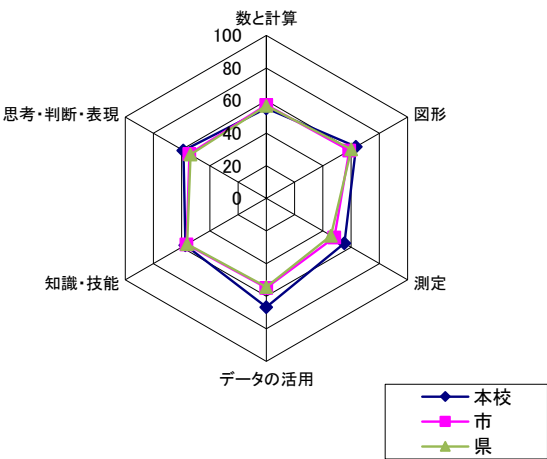
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○指示する語句の役割を理解し、適切に使うことができるかどうかをみる設問については、正答率が高く良好である。 ●漢字の読みは正答率が高いが、「乗車」を書く設問では県や市の平均を下回っている。	・漢字を正しく読むことや書くことの既習内容を定着させていくために、確認として小テストを行ったり、新出漢字を意図的に使って短作文を書かせたりするなど、繰り返し指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる設問については、正答率が高く良好である。	・今後も国語辞典を活用した学習を意図的に設け、資料を読み取り、必要な情報を選ぶ場面を設けていく。 ・教室に国語辞典を置くことで、分からない単語をすぐに調べられる環境を保っていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうかをみる設問については、87.5%と市や県の平均を15ポイント以上上回り、良好である。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかどうかをみる設問については県や市の平均を下回っている。	・国語の授業だけでなく、学級活動や学校行事の話し合いの場でも、参加者から出た考えをまとめる活動を取り入れ、経験を増やす。 ・授業で意見を発表する時も、理由や意図を踏まえて発表できるように指導していく。
書くこと	平均正答率は県や市の平均より低い。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができるかどうかをみる設問では、県や市の平均を下回っている。	・文章を書く活動だけでなく、読み取る活動でも段落のまとまりを意識できるよう指導していく。 ・授業で自分の考えを明確にしたり、理由を書いたりする機会を意図的に設けることで、書く力を伸ばしていく。
読むこと	平均正答率は県や市の平均と同等。 ○叙述を基に文章の内容を捉えることができるかどうかをみる設問では、75%と、県や市の平均を10ポイント以上上回り、良好である。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる設問では、県や市の平均を下回っている。	・物語や説明文を読む際に、段落ごとの要点を整理してノートにまとめたり、筆者がその文章で伝えたいことは何か話合ったりすることで、要点をおさえた読み取りができるよう指導していく。

宇都宮市立小学校瑞穂野南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.3	57.4	56.9
	図形	63.5	58.7	60.1
	測定	55.2	48.1	45.7
	データの活用	66.7	54.9	54.3
観点	知識・技能	57.4	56.6	56.2
	思考・判断・表現	58.8	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

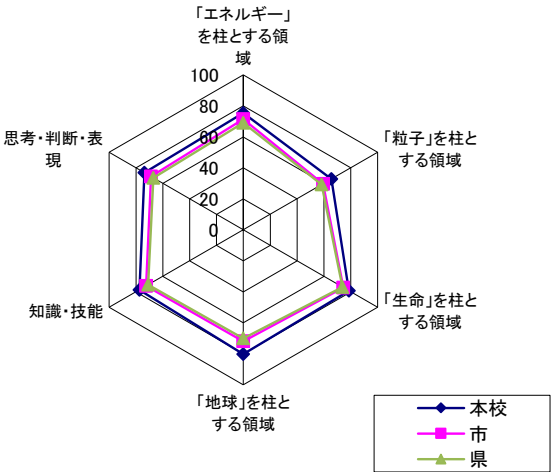
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県や市の平均より低い。 ○波及的繰り下がりがある3けた÷3けたの計算ができるかどうかをみる設問では、市の平均を15.3ポイント上回った。 ●数直線で、目盛りが表す大きさについて理解し、分数で表すことができるかどうかを見る設問では、県や市の平均を大きく下回った。	・がっちり学習や家庭学習などで復習問題に取り組ませることにより、基本的な計算の技能が身に付くようにする。 ・数直線やテープ図などをもとにして数の大きさを考える機会を設定し、分数の大きさについて多角的に捉えられるようにする。
図形	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○球を平面で切った切り口の形を理解しているかどうかをみる設問では、市の平均を17.8ポイント上回った。 ●二等辺三角形の性質を理解し、3つ目の頂点を見つけられるかどうかをみる設問では、県や市の平均を大きく下回った。	・必要に応じてICTなどを活用することで、図形の特徴や性質を理解しやすくする。 ・図形に関する授業やがっちり学習の際に、関係図形の性質を復習したり、図形の性質を使った問題に繰り返し取り組ませたりして、図形の性質について正確に理解できるようにする。
測定	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○重さを基準量のいくつ分かで考え、説明することができるかどうかをみる設問では、市の平均を15.8ポイント上回った。 ●長さの単位について理解し、2つの道のりを比べてどちらの方が短い説明することができるかどうかをみる設問では、県や市の平均を大きく下回った。	・復習問題に取り組む中で、基準量のいくつ分を使って考えていくことのよさが感じ取れるようにする。 ・身の回りにあるものから具体的な場面において適切な長さの単位を判断させるなど、生活経験を通して見当を付けることができるように指導していく。
データの活用	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○二次元表の合計欄の意味の理解や、傾向を読み取ることについての設問では、県や市の平均を大きく上回った。	・社会や理科などにおいても活動を正しく二次元表を読み取れるような指導を行うなど、様々な場面で表やグラフに表すよさを感じとらせていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.4	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	65.6	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	78.6	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	80.2	72.0	70.1
観点	知識・技能	77.4	72.5	70.9
	思考・判断・表現	73.8	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○回路について理解しているかどうかをみる設問では、正答率が県や市の平均正答率より30ポイント以上高い。 ●音の伝わり方について理解しているかどうかをみる設問の正答率は、県や市の平均正答率より低い。	・今後も、実験しながら学ぶ機会を多く設けることで、経験したことを根拠に問題に解答できるようにしていく。 ・実験の結果を共有する際に、結果のみに着目するのではなく、結果から考えられることを自分の言葉でまとめる活動を意図的に設ける。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○同じ体積でもものの種類によって重さがちがうことについて関連付けて考えることができるかどうかをみる設問の正答率は、県や市の平均より高い。 ●はかりを用いて正しく調べられるかをみる設問の正答率は、県や市の平均正答率より低い。	・実験器具を操作する機会を多く取り入れたり、使用法に関する映像を見せたりすることで正しい器具の使い方を身に付けることができるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○植物の成長の過程について理解しているかどうかをみる設問の正答率は、県や市の平均正答率より高い。 ●モンシロチョウのからだのつくりについて理解しているかどうかをみる設問の正答率は、県や市の平均正答率より低い。	・生命の領域に関しては、観察によって理解を深めることが多いため、観察カードの蓄積や、必要に応じて映像教材を有効に活用するなどして学習内容について定着を図っていく。その際、事象の共通点や差異点に目を向けさせることで、より深い理解へとつなげていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○方位磁針の使い方を身に付けているかどうかをみる設問の正答率は、県や市の平均正答率より25ポイント以上高い。 ●太陽と日陰の位置の関係と、校舎によって日光が遮られてできた影の位置を関連付けて考えることができるかどうかをみる設問の正答率は、県の平均正答率よりやや高いが、市の平均正答率とほぼ同じだった。	・太陽と同じ方向に影ができると考えている児童がいるので、太陽の位置と陰の関係について、身近な現象を基にしながら確認し、理解へとつなげていく。 ・授業で扱う内容と日常の事象を結びつけて考えることができるように、身近なものを例に挙げながら授業を展開していく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習面では、「家で、学校の宿題をしている」、「家で、学校の授業の復習をしている」、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」の肯定割合が県や市の平均より高く、自分の課題を意識しながら家庭学習に取り組んでいることが分かる。

○「人と話すことは楽しい」、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」などの項目において、肯定割合が100%と、他者との関わりについて肯定的に捉えている児童が多いことが分かる。

○授業への取組については、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」、「授業では、自分の考えを発表する発表する機会があたえられている」、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の項目において「はい」と答えた割合が県や市の平均より10ポイント以上高い。今後も話し合いや発表などの活動の充実を図っていきたい。

○家での生活では、「毎日朝食を食べている」、「睡眠時間が8時間以上取っている」などの項目において肯定割合が市の平均を上回っていることから、規則正しい生活を送れている児童の割合が高いことがうかがえる。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」など学ぶ意欲に関して県や市の肯定割合を下回っている事項が多い。今後は学習の面白さに気付けるような課題の提示や発問の工夫を行い、学習意欲の向上に努めていく。

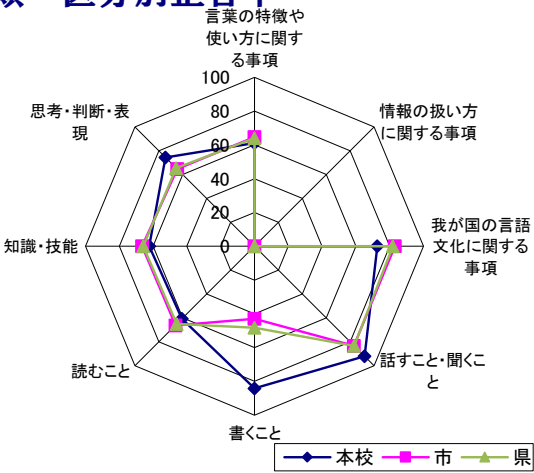
●読書については、ふだん(月～金曜日)1日当たり10分より少ないと答えた割合は47.8%と、約半数の児童があまり本を読めていない状況である。今後は朝の読書の時間を活用し、幅広い分野に興味をもたせたり家読を推進したりしながら継続して読書の時間がとれるようにしていく。

●「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦っている」、「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定割合が県の平均と比べて低い。自己肯定感の低い児童が多くいるようなので、家庭とも連携しながら児童が「できた」、「嬉しい」と思える機会を増やし、自信をもって活動に取り組めるよう努めていく必要がある。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	61.1	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	72.7	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	92.1	83.3	83.4
	書くこと	84.1	42.8	48.2
	読むこと	60.8	66.1	65.1
観点	知識・技能	62.3	66.5	65.9
	思考・判断・表現	74.4	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

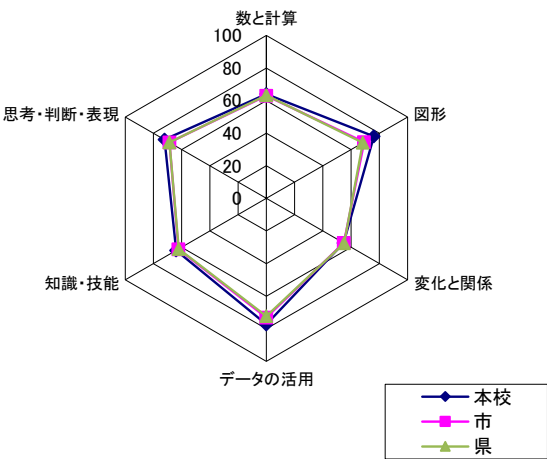
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市と県の平均より低い。 ○熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ設問では、市の平均を7.9ポイント、県の平均を2.4ポイント上回った。 ●既習の漢字を正しく書く設問の正答率は、市や県の平均をやや下回った。	・定期的に漢字小テストを実施し、新出漢字の定着を図っていく。また、音読や読書などを通して漢字の使い方や読み方を復習していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市と県の平均より低い。 ○ことわざの使い方を理解し、文に合ったものを選ぶ設問の正答率は市と県の平均を大きく下回った。	・ことわざや慣用句などを調べる活動を取り入れ、多くの言葉に触れる機会を増やし、語彙力を高めることに繋げていく。また、覚えたことわざや慣用句を使う活動も合わせて行い、定着を図るようにしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市と県の平均より高い。 ○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ設問では、市や県の平均より7ポイント程度上回っている。 ○参加者の発言の内容を基に、司会者の発言に適する内容を書く設問では、市や県の平均を10ポイント以上、上回っている。	・1分間スピーチなどで、相手意識をもって分かりやすく話す機会を多く設定する。また、その際に自分と同じところや違うところを意識して聞くよう指導することで、普段から相手の意見を聞いて、共通点や相違点に着目できるようにする。
書くこと	平均正答率は市と県の平均より高い。 ○アンケート調査の結果を読み、2段階構成で文章を書く設問では、市や県の平均を大きく上回っている。 ○アンケート調査の結果から読み取ったことを、1つ目の段落に書く設問では、市や県の平均を大きく上回っている。	・教科を問わず、授業で書く活動を積極的に取り入れ、文字数を指定するなど、内容についても充実できるよう指導していく。
読むこと	平均正答率は市と県の平均より低い。 ○文章の内容を説明した文の空欄に適する言葉を書き抜く設問では、市や県の平均を10ポイント以上、上回っている。 ●文章を読んで感じたことや考えたことを話しているやりとりを読み、空欄に適するものを選ぶ設問では、市や県の平均を大きく下回っている。	・朝の読書の時間や月に一度実施している家読の機会を活用して、様々な文章に触れることができるようにする。 ・国語の授業の中で、文章を読んで自分が感じたことや考えたことを文章にまとめる学習活動を積極的に取り入れていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.0	63.0	63.3
	図形	76.1	69.2	68.3
	変化と関係	54.6	54.8	55.0
	データの活用	77.3	73.1	72.3
観点	知識・技能	63.9	62.3	62.1
	思考・判断・表現	72.2	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

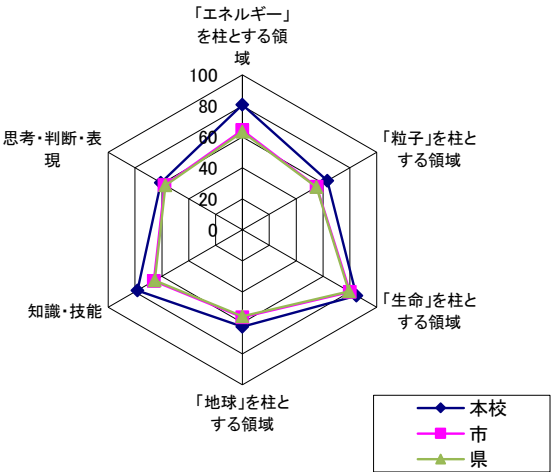
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県の平均、市の平均の両方を上回った。 ○式の意味を表したものとして、正しい図を選ぶ設問では、正答率が100%と高い。 ●もとにする小数のいくつかで大きさを比べる設問では、正答率が31.8%であり、県や市の平均よりも低い。	・小数についての学習では、小数のしくみを復習する時間を設定し、定着を図る。 ・がっちり学習の時間やAIドリル、家庭学習などで基本的な計算の技能が身に付くようにする。
図形	平均正答率は県の平均、市の平均の両方を上回った。 ○立体の構成要素から、立体を見分ける設問では、市の平均を4.8ポイント上回った。 ●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を立てる設問では、正答率が県や市の平均よりも低く、課題が見られる。	・図形についての学習では、具体物を使って角の大きさを求める活動を取り入れ、図形の性質や特徴の理解が図れるようにする。 ・組み合わせてできた角を式から求めることに課題が見られるため、性質を理解し、正しく立式することができるようになる。
変化と関係	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じ。 ○表を縦に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取る設問では、市の平均を17.3ポイント上回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す設問では、正答率が31.8%であり、県や市の平均よりも低く、課題が見られる。	・今後も、表を縦に見たり横に見たりして変化を読み取る活動を引き続き取り入れ、目的に応じて表から必要な変化を読み取れるようにする。 ・2つの数量の関係を式に表すことに課題が見られるため、表から増える、減る、倍などを正しく読み取る活動を取り入れていく。
データの活用	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○折れ線グラフの特徴を理解し、傾きから変わり方を読み取る設問では、正答率が81.8%であり、市の平均を10ポイント上回った。 ●二次元の表の空欄にあてはまる人数を答える設問では、市の平均を1.6ポイント下回った。	・二次元表を扱う機会を意図的に設け、表の見方を練習していく。 ・算数の時間だけでなく、理科や社会の時間でも表やグラフをもとに考察する機会を設け、必要な情報を読み取りまとめる力をさらに伸ばしていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	80.7	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	63.2	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	84.9	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	62.5	56.4	55.8
観点	知識・技能	78.2	66.0	65.3
	思考・判断・表現	60.8	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○乾電池のつなぎ方を問う設問の正答率は100%であり、十分理解ができています。 ●電流が流れない回路を流れるように改善できるかどうかをみる設問の正答率は、県や市の平均正答率より低い。	・エネルギーの領域では、実験を通して体験を伴った理解を促したり、理料的なキーワードを正しい語句で覚えたりできるよう、今後も指導していく。 ・いろいろな回路図を簡易検流計を使って乾電池の向きを確かめながら、電流が流れる回路と流れない回路に分類する活動を取り入れ、理解が深まるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○水の温まり方について、実験の結果を解釈し、考察する設問の正答率は、県や市の平均正答率より20ポイント以上高い。 ●ガラス瓶の上の1円玉が動いた理由を、温められた空気の性質と関連付けて表現する設問の正答率は、県や市の平均正答率より低い。	・今後も温度による水の状態の変化について、日常生活の様々な場面で意識させ、理解を図れるようにする。 ・温度による空気の体積の変化について、学んだことが日常生活とどう繋がっているのか考えさせる活動を取り入れる。 ・一人一人が見通しをもって実験し、結果から考えられることを自分の言葉でまとめる活動を積み重ねる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○サクラの夏の様子についての設問の正答率は100%であり、十分理解ができています。 ○骨のはたらきについて説明する設問の正答率は、県や市の平均正答率より14ポイント以上高い。 ●ヘチマの季節ごとの成長の様子を選ぶ設問の正答率は、県や市の平均正答率より低い。	・生命の領域に関しては、観察によって理解を深めることが多いため、観察カードの蓄積や、必要に応じて映像教材を有効に活用するなどして学習内容について定着を図っていく。その際、前回の観察時との違いにも目を向けさせることで、より実感を伴った理解へとつなげていく。 ・骨や関節、筋肉の動きについて、骨格標本や筋肉の模型図と自分の体の動きとを比べることで、今後も理解が深まるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○実験の結果から水がしみこみやすい粒の特徴を答える設問の正答率は、県や市の平均正答率より12ポイント以上高い。 ○時刻によって星座の並び方は変わらないことや、北の空の星の動きを答える設問の正答率は、県や市の平均正答率より20ポイント以上高い。 ●窓に結露が発生する理由と、結露の水滴がつく場所について選ぶ設問の正答率は、県や市の平均正答率より低い。	・地球の領域に関しては、実験や観察を通じた理解が重要ではあるが、授業の時間だけで実験や観察が完了できなかったり、不十分だったりするものも多い。そのため、必要に応じて映像教材等も活用しながら学習内容の理解を図れるようにする。 ・学習したことをキーワードを使って、「何が分かったのか」を自分の言葉でまとめ説明させる活動を取り入れ、基礎的な知識の定着を図る。その上で、実生活との関連付けができるように、日常の場面とのつながりを考える活動を取り入れていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」や「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」といった学習意欲に関する設問において、肯定割合が100%であり、県や市の平均より高くなっている。様々なことに疑問をもち、興味や関心をもって学習していることがうかがえる。今後も引き続き、意欲的に学習できるよう工夫した授業づくりなどを行っていく。

○「毎日の生活が充実している」の設問の肯定割合が100%であり、学校生活に満足していることがうかがえる。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定割合が91%で県や市の平均より高い。「人と話すことは楽しい。」「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」の設問の肯定割合はいずれも100%であり、一人一人が人とのつながりを感じ、大切にしたいという思いをもって生活していることが分かる。今後も安心して過ごしやすい環境づくりに努めていく。

○「1か月に何冊くらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがや雑誌は除く)。」の設問では、11冊以上と回答した児童が県や市の平均よりも高かった。しかし、2冊以下と答えた児童は、県の平均より少なかったが、市の平均よりは高かった。読書貯金(よむよむ貯金)や親子読書、必読図書の推進など、児童の読書習慣の定着を図っているところではあるが、今後も読書の大切さを呼びかけ、児童が自ら意欲的に読書に取り組めるように支援していく。

●「ふだん(平日)一日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)。」の設問で4時間以上と答えた児童が4.4%で県や市の平均より低いが、3時間以上となると30.5%と、県や市の平均より低いものの、割合がかなり増えるので、毎日時間を決めて過ごし、健やかな成長と健康のために、改めて基本的な生活習慣の大切さを家庭と協力しながら支援していく必要がある。

●「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」「授業の中で、学習の目標(めあて・ねらい)がしめされている。」「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」の設問の肯定割合は100%だった。しかし、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」と回答した児童の割合は、県や市の平均より高い。学習の目標を意識して、話し合い活動にも積極的に参加できているが、自分の意見や考えを文章で表現することに自信がない児童が多くいることが分かる。それぞれの教科においてどのような言葉や表現を用いると自分の書きたいことを分かりやすく表現できるかななどを示し、自信をもって文章表現に取り組めるようにしていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着を図る取組	朝の活動において「がっちり学習」として、全学年2人体制で、基礎的・基本的な内容の問題に取り組む活動を実施している。また、授業においても、前学年の内容を振り返り、定着が図れるようにしている。	5年生では算数と理科、4年生ではすべての教科の知識・技能の観点別の正答率が、県や市の平均を上回った。5年生の国語では知識・技能の観点別の正答率は、県や市の平均正答率より低いが、思考・判断・表現の観点別の正答率は県や市の平均正答率より高い。
家庭学習の習慣化に向けた取組	3～6年生では家庭学習ノートを用いた自主学習を学年に応じた目標時間取り組むように指導している。また、年に2回「家庭学習強化週間」を全学年実施して、家庭との連携を図っている。	4・5年生ともに、自ら学習に取り組む態度に関わる「家で、学校の授業を復習している」の設問で肯定的な回答をした児童の割合は8割以上と市の平均を大きく上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4年では算数の「数と計算」についての設問、5年生では国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての設問の正答率が、県や市の平均正答率よりも下回っている。	基礎的・基本的な学習内容の定着とそれに基づく知識の理解の質を高める取組	・朝の活動において、宮っ子学カステップアップシート等を活用し、全校で同じ領域に取り組む機会を設け、重点的に復習することで、学習内容の定着を図る。 ・授業の中で、漢字や計算方法等の知識のみでなく、数の仕組みを考えるなど、授業内容を日常生活と結びつけるなどして、より深い理解につなげられるようにする。